

# ニタイ・トだより

問 487-23332

## 「希少種保全、その最前線」AOAO SAPPOROとの取り組み」

標茶町には、キタサンシヨウオをはじめとした希少な野生動物が生息しています。しかし、その多くは生息環境の変化や人間活動の影響により、個体数の減少が懸念されています。

本フォーラムでは、町内で進めているキタサンシヨウオの保全活動を中心に、本町に生息する希少動物の現状と課題について紹介します。あわせて、AOAO SAPPOROと連携による飼育、保士の取り組みについても報告し、野生動物と人の関わり方について考えます。

地域の自然を未来につなぐために、私たちにできることは何か。身近な自然「目」を向けるきっかけとして、ぜひご参加ください。

▼内容①：「標茶町に生息する希少種」

▼講師：標茶町博物館「ニタイ・ト」学芸員 自然担当 一元永康誠



キタサンシヨウオの成体

▼内容②：「キタサンシヨウオ生息域外保全」

▼講師：AOAO SAPPORO ニア マネージャー 生物担当 高橋徹

▼内容③：「幻の花、絶滅危惧種カフツグワイ」

▼講師：浦幌町博物館学芸員 持田誠

▼日時：5月9日(土)

▼場所：標茶町開発センター 町民ホール

▼特別展示 湿原のサファイア〜キタサンシヨウオの卵のう〜

北海道の湿原に春を告げる存在、キタサンシヨウオ。その卵は水中に透明な袋状の「卵のう」として産み付けられます。卵のうは光を受けると青く輝いて見えます。冷たく澄んだ水の中で、命は静かに育まれています。ぜひ水の中に広がる次世代への「命のじまり」を、間近でご覧ください。

▼日時：4月上旬〜5月中旬(卵のうの状態で変化します)

▼場所：標茶町博物館1階ロビー(無料)



キタサンシヨウオの卵のう

